

# 「海の危機新聞」

霞小学校 6年 門田 蒼

## この先、海はどうなる？

世界のリサイクルは1割ほど大部分は燃やす、土に埋めるそのままです。その量はとも多くあと30年で海に流れついた大量のプラスチックが海の魚の量を減らさるという予想もあるほどです。なので未来をかえるためには1人1人がごみをすてないという心が大切です。

## 海の生き物が絶めっ？

2010年に海岸地域で発生したプラスチックごみは9,950万トンで3,190万トンが不適切にされ480万5,1270万トンが海に流出。それだけではなく、海の生き物をとりすぎたりしている。まだとれる量は31.4%と利用している量は58.1%なので魚をとりすぎているため海の生き物は1974年から2013年まで数が低下している。1974年、90%、2013年、60%なので日本人も外国人も海にたくさんのごみをすてているということがある。

## 海がゴミだらけの世界

2010年に海岸地域で発生したプラスチックごみは9,950万トンで3,190万トンが不適切にされ480万5,1270万トンが海に流出。それだけではなく、海の生き物をとりすぎたりしている。まだとれる量は31.4%と利用している量は58.1%なので魚をとりすぎているため海の生き物は1974年から2013年まで数が低下している。1974年、90%、2013年、60%なので日本人も外国人も海にたくさんのごみをすてているということがある。

## 食へられなくなると？

世界の人口が増え、漁業の技術も進歩したせいで、魚のとりすぎが問題になっています。魚が大好きな日本人にもおなじみのマグロやウナギもゼツの危機に陥っています。マグロのおすしもウナギのかばやまも食べられなくなる日があるかもしれません。そうならないように、魚などの海の生き物をすてたりつづけられるような仕組みを考えていく必要もあります。魚をとる量を制限するのをもととつです。

種類	割合
プラスチック	67.0%
紙	9.3%
ガラス	11.7%
金属	6.5%
その他	5.5%

今、一番拾われてるゴミはプラスチックです。ゴミでできたプラスチックは、ふたからプラスチックはなるべく出さないようにマイバッグやマイボトルを持ち歩く。トボトルはリサイクルに出す。

## 魚のエサはゴミ

プラスチックは海の中でくたけで小さなはへんになりそれを魚や海鳥などがエサとまちがえて食べてしまいます。クジラのおなかの中から大量のプラスチックが出てきたというニュースもときどきあります。それが今の世の中です。

## 今、私たちにできること

① ふたからプラスチックはなるべく出さないようにマイバッグやマイボトルを持ち歩く。トボトルはリサイクルに出す。  
② 海のエコラベルと、MSC認証のマークがあります。これは、これまで魚を食入続けることができないように海の自然や資源を守りながらえられた水産物であることを示すマーク。

調べてみて海にはごみがたくさんすてられていて、今の海には危機が迫っているということが分かった。だから、今からでもごみを1つずつ減らしていこうと思った。